

第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	シンポジウム「水でつながる大分、日本、アジア太平洋の生きものと人」
主催者	NPO法人おおいた生物多様性保全センター NPO法人水辺に遊ぶ会
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	9:30～16:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	ビーコンプラザ臨時会議室
参加人数	約150名

開催概要 (900字以内)

I部：9:30～ 「めぐる水 はぐくむ生命 つながる人びと」
 —中津干潟から発信する沿岸域の水環境保全とワイズユース—

II部：12:30～「生物多様性の保全を目指して」

III部：14:30～ 総括「アジア太平洋の水環境の保全・再生は地域から！」

[提言]

水環境保全のために全ての主体による相互理解が大切である

- ・全ての主体により意志決定された事柄を、施策に反映するための、社会のしくみ作りが必要である。
- ・アジア太平洋地域の海ゴミ問題の解決(回収促進、発生抑制など)のため、日韓の協力モデルによる経験と知識をもとに取り組みを行う。

国内、国外における生物多様性保全推進に向けて

- ・農林水産業の再評価と、これらによりもたらされる生態系サービスの認識を広げる。また、第一次産業と保全活動の連携を深める。
- ・日常的な保全活動に対する評価が大切である。

日本の地域における活動や知識が、海を越えた問題解決の糸口となる

- ・大分から日本へ、そしてアジアへとネットワークの構築が必要である。

[感想]

午前午後と長時間にわたる行事にもかかわらず、多くの方々が会場足を運んでくださいました。海外から参加された方々も熱心に発表を聞いてくださり、「市民が中心になり、行政や研究者など様々な機関が協力していることが素晴らしい」「自分の国は後進国だが、大変参考になった」などの言葉をいただきました。水サミットを通じ、水問題は決して遠い外国の話ではなく、私たちの目の前の問題なのであることを改めて感じました。大分の水環境問題への取り組みはこれからがスタートです。多くの人と立場を超えて、ともに考え、行動したいと思います。



第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

- ・国内外の水問題を、今後も広く情報提供していただきたいと思います。
- ・日本の快適で豊かなくらしは、他国の水を大量使用することで成り立っているのだと、今回の水サミットを通じて痛切に感じました。途上国の水事情の改善や水問題の解決に向けて、日本がリーダーとなるべく、水フォーラムさんに頑張ってくださいよう、期待しています。

その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

- ・会場の照明が大変暗かったりスポットライトの方向が変だったりしたのが気になりました。また、隣のブースの音が筒抜けで、音声聞き取りにくかったです。また、地元で活動をするNGO、NPOにとっては会場費が大変高く、運営上負担でした。多くのNGO、NPOは、会場費などの費用の問題で参加できなかったところが多いのではないのでしょうか。
- ・たくさんの方と交流を持つことができ、また、私たちの活動を広く伝えることができ、参加して良かったと思っています。

